

県外派遣報告書

審判員名	山宮紅葉	所属 埼玉県 社会人連盟
大会名	令和6年度 関東高等学校女子バスケットボール大会	
期間	2024年 6月8日(土)～2024年 6月9日(日)	
会場	アリーナ立川立飛・東京女子体育大学	
スケジュール		
期 日	内 容	場 所
2024年6月5日(水)	審判会議	zoom
2024年6月8日(土)	富士学苑 対 市立柏	アリーナ立川立飛
会議 講義 内容		
<p>指名審判員レクチャー S級審判員 村上 恵美 様 S級審判員 坂 美佑紀 様 S級審判員 大坪 綾音 様</p> <p>・ヘルプディフェンダーについて。 →プライマリーとコールについて</p> <p>● Help Defender ~Point~ (1)誰のプライマリエリアで起きたか。 (2)誰がそのディフェンスを一番長く見ることができていたか。【 Stay with the play 】 (3)ヘルプディフェンスレベルより下にいるディフェンをリードは把握する。 (4)ペイント内で起きる全てのケースがリードというわけではない。ヘルプディフェンスではなく、プライマリマッチアップのレフェリングは今までと変わらずそのプライマリのオフィシャルが判定。 (5) 推測して吹かない。 (見えなかったときは吹かない。) (6)センターは引き続きセカンダリとして判定にアテンド。 (7) ペイントの中に入る動きではなく、ペイントをルーズすることでスライスアングルをとる。(ディフェンスの背中ではなく、オフENSEの姿の破片でも見えるアングルをとる。) (8)オフENSEの肘や膝などへの判定はセンター、トレイルからのアングルが良く見える。[Primary take/Presentation] (9)トランジションではヘルプディフェンスの定義はない。リードがまず1番となり、リードが鳴らなかった場合にセンターがコールする。[Cadence Whistle]</p> <p>●Be Careful!!! →ヘルプディフェンスレベル・・・フリースローレーンの一番高い位置にあるハッシュマークを結んだ線、これより下に位置するヘルプディフェンスをリードが把握していく。 ※ヘルプディフェンスレベルより上にあるプレーやコンタクトは、トレイル・センターが基本的にはカバーする従来のメカニクスと変わらないイメージです。</p> <p>○Floor coverage ペイント内でのコンタクト * 全てがリードのプライマリ</p> <p>○Angle & Positioning 無理なアングルから無理なレフリングをしないこと。 (判定の質が下がる)</p>		

実技				
担当試合	期 日	2024年6月8日(土)	女子	12:00
	対戦カード	富士学苑 VS 市立柏	CC	U1 (U2)
	相手審判	CC 佐々木廣子氏(神奈川県) U1 新井のどか氏(群馬県)		
ミーティング内容		主任	中嶽希美子氏	
<p>●3人でゲームを進めていく。 ●BASICを大切に。 ●感じたことや気づいたことは共有する。 ○審判会議であったレクチャー内容の確認 ○ゲームコントロール ファウルの数、フリースローシューター、ショットクロックとゲームクロックの管理、TO管理、様々な情報を持っておく。 ○コミュニケーション ・クルーを信じる。 ・持っている情報はその場で共有する。 ・相手から情報を欲しい時には自らコミュニケーションを取る。 ・見たもの、判定したものを正直に表現していく。 ○チーム情報の共有</p>				
全体の感想				
<p>1ゲームを通して、クルーの中でよく情報を共有しながら試合を進めることができた。自分自身、ペイント内のプレイヤーのコンタクトが気になっており、その点がクルーで共有できたことにより、それぞれがプライマリーを見つつ、目を当てていくことができたように感じる。トラベリングやチャージング等、クルー間でもよく話し今のチームの状況+公平性が保てるようにしていった。しかし、TOどのトラブルが3回あり、スコアやファウルの数を確認するケースがあった。両チーム初戦であったし、ゲームを止めてしまうことが続いたこともよくなかった。又、ゲーム中に濃淡どちらのファウルなのか、というケースが多くあった。その点もレフリーがTOにわかりやすく声を使ってコールしたり、ゆっくり行う事ができていれば、このような対応はなかったと感じる。</p> <p>反省で頂いたセンターからのコールでも良かったりするケースも、リードからのシングルコールで鳴ってしまうケースがあった点は、それぞれがアングルや視野がうまく取れておらず、そのようなコール続いてしまった。ダブルコールも確かに少なかったのも、その点も改善していく必要があると感じた。</p> <p>ゲームの流れを読み取って、「必要な笛」を考えて、判定を重ねていくことが出来ないことがあり、その点は大きな反省である。関東大会という点もあり、プレイヤーやベンチの意図を汲み取り、目を当てつつもりていたが、自身の笛でプレイを決めてしまった部分があった。</p> <p>関東大会という舞台で、他県の方々と吹く機会は私にとってはとても勉強になる場でした。自身のレベルも改めて知ることとなり、また研鑽を積んでいきたいと思いました。都県の方々と交流させて頂き、審判のことだけでなくバスケットの勉強にもなり、その点もとてもおもしろいと感じました。この大会を通して勝敗含め様々な事が決まりました。それはそれぞれの積み重ねできたことの結果であったんだと感じます。「バスケ」の理解、チームやゲーム全体に目を向ける事等、たくさんの情報をもっと感じ考え、判定を重ねていけるようにしていきたいと思いました。</p> <p>ありがとうございました。</p>				